

令和4年度 施設関係者評価

評価者氏名：胸組 やす子

| 1. 保育理念、保育観 | |
|--|----|
| 内容 | 評価 |
| 園の保育理念、保育方針、全体的な計画を全職員に周知している | A |
| 園の保育方針を基にした、全体的な計画が立てられている | B |
| 定期的に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている | A |
| 全体的な計画を基に行事や園外保育を計画し、実践、分析、評価を行っている | B |
| <p>モンテッソーリ教育の理念に基づいた保育を柱として、0歳児から5歳児までの子ども達それぞれを、保育の専門職として客観的に「観察」し、発達に見合った自立が達成できるように保育を行うということが、統一した意識として職員間で共有されている。手を出しすぎず、子どもの力を信じて、基本的には見守り、必要な部分だけを援助していくことは、特に乳児では発達差が大きいいため難しいが、子供の個々の発達に合わせようと努力している。</p> | |
| 2. 保育計画、保育実践と振り返り | |
| 内容 | 評価 |
| 全体的な計画を基に、各クラスで年間の目標を立案し、計画的に保育を行っている | A |
| 子どもの発達を理解し、その先に見通しを持った保育を工夫している | B |
| 配慮が必要な場合は、職員が共通認識を持ち、その子に応じた対応をしている | B |
| 保育の振り返りを定期的に行い、今後に生かせるようにしている | A |
| <p>乳児期0歳児からモンテッソーリ教育を実践できるよう、モンテッソーリ教育の専門家が定期的に来園しアドバス・指導を行っている。モンテッソーリ教育では個々の発達に合った「おしごと」を子どもたち自身が選んで行っている。支援が必要な子供たちは波があり、おしごとに上手に入れない日もあるが、ポジティブな言葉がけで個別に対応している。支援児に対しては、担任だけではなく職員全体が共通認識を持って保育にあたるのが大切だが、定期的に状況を報告しながら、情報をアップデートしていくことが大切だと思われる。</p> | |
| 3. 環境、安全 | |
| 内容 | 評価 |
| 一人一人が安心して過ごせる環境を工夫している | A |
| 園の保育方針を基にした、環境構成が整えられている | A |
| 職員一人一人が健康、安全に対する認識を持っている | A |
| 職員が危機管理意識を常に持ち、緊急時に対応できるようにしている | B |
| <p>子どもサイズの家具が環境に配置されていて、子どもたちが安全・安心して生活している様子だった。モンテッソーリ教育の理念に基づき、縦割りの異年齢保育を実践しつつ、年齢別の横割り保育もできるよう、工夫されている。各保育室にも防犯カメラが取り付けられていて、事務室にあるモニターからいつでも安全確認が出来る。危機管理認識は共有されているが子供の怪我や事故が起こらないよう環境や職員配置について、職員全体でミーティングを行い、書面に起こしていた。避難訓練などもシークレットで行われていた。またヒヤリハットを職員全員で取り上げ、危険個所を令和4年度末から新年度にかけて、安全に、十分な配慮が出来るように見直しを計画しているとの事。</p> | |

| 4. 食育 | |
|---|----|
| 内容 | 評価 |
| 職員が食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせた食育計画を立てている | B |
| 栄養士、保育士などが連携し、食育を積極的に進めている | A |
| 食材の安全に配慮した上で、様々な食材を味わえるようにしている | A |
| 離乳食やアレルギー除去食などの特別食に配慮している | A |
| 令和4年度4月からは給食スタッフの入れ替えが4人ほどあったが、調理や事務に支障が出ないように十分な配慮が園として行われたため、大きなトラブルは無かった。献立作成を宮城の業者に業務委託した結果、新しい献立メニューで子供たちの食べ具合を注意していたが、子どもサイズに刻まれた温野菜が薄味で味付けされていたり、魚の種類も今までより多く提供されていたり、残食がいつもより多いとすぐに次回からは子どもが食べやすいように、色々と工夫されて提供されていたため、昨年度よりはたくさんの食材から新メニューへと移行が出来たようだ。 | |
| 5. 職員構成、役割分担、研修 | |
| 内容 | 評価 |
| 職員の仕事や役割を明確にし、連携しながら円滑に保育が進むよう、心がけている | B |
| 園内、園外研修の年間計画を立てて、実行している | A |
| 各職員が保育を深めるための研修を積極的に行っている | A |
| 園務分掌で職員間の役割や仕事が年度当初に決められ、各々、責任をもって、任務を遂行していた。行事の準備についてもしっかりと行われていた。ただ、大きな行事については、常勤の責任が大きく、保育と並行して行っていくことには負担が大きかった。モンテッソーリ教育を実践していく上での園内研修も毎月行われていた。 | |
| 6. 保護者支援、子育て支援 | |
| 内容 | 評価 |
| 保護者に対し、園の保育内容や子どもの姿がわかるような発信をしている | B |
| 保護者の状況など、個人情報の漏えいに気をつけている | A |
| 保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共有するよう、心掛けている | B |
| 地域で子育てをしている親子に配慮し、園児との交流を積極的に進めている | B |
| 毎月、園だより、クラスだよりを発行して園全体の保育内容や、クラスでの様子、取り組みを伝えている。忙しい保護者とも、送迎時の挨拶やコミュニケーションに努め、保育参観・懇談会を通して、家庭とこども園で情報を共有し、保育を行っていた。未就園児については子育てサロンや一時預かり事業を実施しているが、感染症の状況を見ながら行われた。在園児との交流は時節柄、行うことはできなかった。 | |
| 7. 小学校や地域社会との連携 | |
| 内容 | 評価 |
| 定期的に地域の保育園や幼稚園、小学校との交流を行っている | C |
| 町内会や地域の方との交流を積極的に行っている | C |
| ボランティアや実習生を受け入れる意義を理解し、受け入れ体制が整えられている | B |
| コロナ禍であるゆえ、地域交流は難しい状態が続いている。子どもたちの多くが進学していく地元の小学校教諭は、日時を決めて来園し、継続的な支援ができるように情報を提供していた。実習生の受け入れは感染症対策に注意しながら行っていた。 | |